

## 城端線・氷見線の維持管理費の試算（概算）

## 【試算の前提】

- ・城端線・氷見線をLRT化（電化）した場合と、新型鉄道車両（非電化）を導入した場合の2ケースについて、現行の輸送力を確保する前提で試算
- ・LRTは、現行の城端線・氷見線の運行ダイヤに加え、現行の輸送力を確保するため、朝夕のピーク時の増便（9本）を含めて維持管理費を算定
- ・新型鉄道車両は、現行の運行ダイヤで輸送力が確保できるため、現在の城端線・氷見線のダイヤに基づき維持管理費を算定

## 1 維持管理費（年額）

LRT	新型鉄道車両
10.4億円※	7.6億円※

※鉄道統計年報（2018）の民鉄・第三セクター鉄道のうち、輸送密度が城端線・氷見線と近似の1,000人～3,000人の路線を参考に、LRTは、電化路線の20社のデータ、新型鉄道車両は非電化路線9社のデータから県が試算

## 2 収入額

令和元年度（2019）	令和2年度（2020）	令和3年度（2021）
4.5億円	3.3億円	3.5億円

出典：「データで見るJR西日本」各年度の城端線・氷見線の旅客運輸収入額の合計

## 3 収支見込（収入額－維持管理費）

LRT	新型鉄道車両
▲5.9億円～▲7.1億円	▲3.1億円～▲4.3億円